

包括的性教育だより

和歌山市立宮小学校

本校では今年度より全学年で包括的性教育の取組を始めています。包括的性教育では、体のしくみだけではなく、健康や安全、人間関係（友達関係や恋愛、学校や家族の中での役割など）、人権やジェンダー平等、多様性の尊重など私たちがどう生きていくかといった内容を学習していきます。

9月19日（金）5年生で性の健康相談室・浜野助産院 助産師：浜野優子さんにおこし頂き、『同意と境界』という内容でお話を聞かせてもらいました。大変遅くなりましたが、教えて頂いた内容と、児童の感想をお伝えさせて頂きます。ぜひお子様とご一緒に読んでください。

始めに浜野先生から、「おかしちょうだい」「消しゴム貸して」と友達などに言われて「いいよ」と言ったけど、本当は「イヤだなあ」と思う時ない？との質問があり、子どもたちも「あるー」と答えていました。そういう場面ではイヤだけど断ったら「相手を傷つけてしまうのではないか」と悩んだり、断れずに「いいよ」と言ってしまう経験も多いのではないでしょうか。

浜野先生から、自分と自分以外の相手との間には目には見えない境界線『シャボン玉バリア』があること、そしてその境界線は1人1人が持っていて、相手・場所・その時の気分によっても変わり、自分がどう思うか自分が決めていいものと教えてもらいました。



その後、事前に記入した自分のワークシート（裏面に一部載せています）を見ながら、○×△は1人1人違うことを確認し合い、友達と自分、家族と自分、先生と自分、どんなに仲の良い相手にも境界線があることも確認しました。「自分の持っている境界線は誰が決める？」の質問に「自分！！」としっかり答えることが出来ました。

「もし相手が境界線を越えてきた時どう言う？」という質問には、「イヤ」「ムリ」「NO」と答えることができていました。また自分が嫌なことをされた時（されそうになった時）のNO・GO・TELLについて、動画も紹介して頂きながら学びました。

相手の境界線を知りたい時は相手に聞くこと、同じ相手でもその時その時で違うので、この間よかったですからいいやん！ではなく、その都度聞いて確認すること、「いいよ（YES）」という返事が返ってきた時は同意になることもお話されました。はっきりしない返事や「いやだ（NO）」は同意していないことです。「いいやんいいやん」とだれかを力ずくで同意させることは、本当の同意ではありません。親しい関係ほど「なんとなく」「いつもそうだから」「わざわざ聞くのはちょっと…」となりがちですが、相手を尊重するためにも、大人も子どもも「同意を得る」ことを大切にしていかなくてはいけないことを学びました。

最後にワークシート（裏面に一部載せています）『たいせつなからだ、たいせつなきもち』という内容で、それぞれの場面で自分だったらどうするかを考え、相手に断られた時に相手のイヤという気持ちも受け入れることの大切さ、イヤとキライは違うことも再度確認しました。

最後に浜野先生から、「いやな時はいやと言っていいんだなとほっとした子、いやなことをしてたかもとドキッとした子もいたんとちがうかな？」という問い合わせにうなずいている子もたくさんいました。

自分の気持ちに正直に、相手のいやな気持ちや言葉を受け入れられる皆さんでいてほしいこと、困った時に友達に相談するのも大切だけど、相談できる大人の人に相談してほしいことも伝えてくれました。

今回の大本命ポイント！

☆自分と自分以外の人との間に見えない境界線（シャボン玉バリア）があること

☆自分の境界線は自分が決めていいこと

☆相手が無理という境界線（シャボン玉バリア）は越えてはいけないこと

☆境界線（シャボン玉バリア）を越えてきた（越えられそうになった）時は、NO・GO・TELL

☆相手の境界線（シャボン玉バリア）を知りたい時には相手に聞いてみること

☆同じ相手でもその時その時で違うから、その時その時で聞くこと

☆「イヤ」と言われても（言っても）、「キライ」ということではないこと ※その行為がいやということ



授業の様子・児童の感想



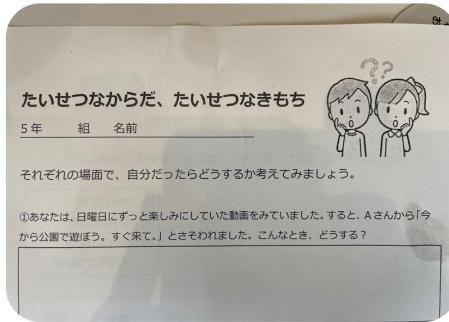
境界線であるシャボン玉バリアがどんなものか知るために川嶋教頭先生に浜野先生が一步ずつ近づきました。川嶋教頭先生が浜野先生とこれ以上はNO（近づいてほしくない距離）になると川嶋先生が手を挙げ、川嶋教頭先生と浜野先生の距離を確認し合いました。境界線は、場所・相手・その時の気分によってもかわります。

①～⑦のそれぞれの場面で、自分がどう感じるかを考えてみましょう。

- いいと思う
- ✗いやだと思う
- △時々ならいい
- どちらでもない

		友達	家族	先生
①	消しゴムをかしてあげる			
②	かばんの中を見られる			
③	テストの			

最後にワークシート『たいせつなからだ、たいせつなきもち』という内容で、それぞれの場面で自分だったらどうするかを考え、相手に断られた時に相手のイヤという気持ちも受け入れることの大切さ、イヤとキライは違うことも学習しました。



説明が分かりやすく、色々なことが分かりました。それで、友達にベタベタされてがまんしていたのですが、先生のおかげで勇気ができました。あと、無理やりさそわれていたのも解消されると思いました。

私は一時断れない時がありました。そのあとは、断るということが頭には全くなくて、断ろうとしても自然に「うん」と言っていました。けど今回で、断ってもいいよと昔の自分に言いたくなりました。今回きてくださいありがとうございました。断っていいと言うことが分かりました。

いつもは「やめて」とか言うのがちょっと恥ずかしかったけど、言えるようになりました。ありがとうございます。教えてくれたことは忘れません。6年生になって色々なことを教えてください。

事前にワークシートにそれぞれの場面でそれぞれの相手（友達・家族・先生）に自分がどう感じるかを、「○いいと思う」「✗いやだと思う」「△時々ならいい・どちらでもない」に分け記入しました。○✗△はみんなそれぞれ違うことを確認し合い、友達と自分、家族と自分、先生と自分、どんなに仲の良い相手にも境界線があることを確認しました。

イヤだと言ってしまうと相手のことをキレイなのかと思われてしまうかもしれないけど、本当にその人のことをキレイだというのではなく、そのことに対してだけイヤだと言っているということを分かってほしいなと思いました。生理がまだ始まっていないので、どんな種類があるのか分かりました。家でもお母さんと生理が来た時のために勉強しておきたいたいと思います。

相手の境界線を知るために、聞くことが大切だと思いました。いやだと思ったら「イヤ」と言うこともわかりました。イヤ・ノーという断り方も考えてみよう思います。妹にイヤ・ノーという断り方を使ってみたら少し悲しんで（イヤな気持ち）いたので断り方を変えてみようと思います。（もちろんみんなにも）

いつもは友達との距離、境界線など気になりませんでしたが、友だちと遊ぶ時やハグする時は必ず友だちに聞こうと思いました。最後に生理のこと、ナプキンのつけ方の体験やナプキンがどのくらい吸収するかも教えてもらいました。

いざという時の自分の身を守る行動



◎自分が小学生の時もこんなことを教えてもらったのかなあ、と思いましたながら聞かせて頂きました。とても難しい内容で、きっと昭和なら「イヤとは言えない」「気をつかう」ことを指導していたんだろうなど考えると時代は変わったなあと実感です。イヤなことをイヤと伝えて自分を大切にしていくこと、イヤだと言われた方も何か傷つかない方法をうまく考えていくこと、大人でも人間関係に悩むことは多々あるので、私自身も参考にさせてもらえばと聞かせて頂きました。ありがとうございました。

◎同意と境界が守られていたら、大人の世界でも平和になれて戦争が起こらないのに…と感じました

(保護者の方)

